

エリアウェーブ

峡東教育事務所
 地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2731
 FAX 0553-20-2733

◎回覧・配付をお願いします。増し刷り配付はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

◎ご意見・ご感想、情報提供はこちらまで。Email: hirayama-atxj@pref.yamanashi.lg.jp

「自立のための勇気づけ ~10歳に至るまでと10歳を超えてから~」

6月30日(木)、「子育て講演会」が坂本玲子先生(県立大学教授)を講師に招き、山梨市民会館において開かれました。坂本先生のアドラー心理学と脳の発達とを関連づけた楽しく心に残る講演に、177名の参加者は有意義な時間を過ごしました。ここに講演内容の概要を報告します。

講師 坂本 玲子先生

乳児期は泣くことによって、自分の欲求を親に伝え、親から愛情や信頼感を育みます。また、一人遊びも大切な時期で、集中力を獲得します。この時に気をつけなければならないのが、夢中になっている遊びを抱っこなど大人の都合で奪わないようにすることで、遊びにより得られる物質と脳の発達の妨げになります。

「勇気のパワー」が一番つくのが2才児。好奇心旺盛になりあれもこれもやってみたくなる時期です。本当はできないことも「やれる」と、大人を煩わせるが、危ないからといって奪わないことです。子どもを認めてあげる言葉かけ、「できたね、よかったね」などが「ぼくはできるんだ!」という自信を持たせてくれます。

4・5才になり、友達ができることと児童期。情動系に快感、おもしろいと思える経験をさせることです。遊びと自然、群れるという3つの要素が必要で、外遊び、群れに入れてたくさん遊ばせること。これにより、時にはケンカもするけれど自分たちでルールを学び、自分の力で遊べるようになります。

9才は批判をする時期。「お母さんやってないじゃん」などと、大人の行動を批判するが、「何、生意気言っているの!」と大人が言うとかえって「私は間違ったことを言っていない」と心に不満を持ちます。

しかし、「いいこと言ってくれたわ。これからも言ってね」と大人が行動を改善すると、「大人はちゃんと変えてくれた。私もやらなきゃ」と、自分の行動を内省する力が育ち、自分も行動する子どもに育ちます。

10才で子どもは、ほぼ大人と同じ精神年齢に達し、人間としての基本的な性格が決まります。足りないのは経験と知識のみ。親が口を出しすぎるといつまでたっても子どもは自立しないので、子の課題、親の課題、共同の課題を分離すること。10才の誕生日を迎える

時に「子育て終了宣言」、14才で生活能力のうえで自立、20才で経済的自立ができるように、本人の発達段階に合わせて手を抜いていきましょう。

そして、「夢中になれる」たくさんの柱をもたせてあげることが大切です。柱が多い子どもたちは友達との関わりも上手くこなせます。

10才以前の子どもの短所といわれる部分は、全て長所に変えられます。言い方を変えるだけで、短所も長所となり、「うじうじしている」ではなく「慎重に物事を考えている」というように、親がどのように自分の特徴を表現したかで、自分の性格を判断します。

遺伝子は「特徴」にすぎないので、プラスに生かせばいくらかでも社会的にプラスに働き、マイナスに声をかければいくらかでもマイナスになります。

「どんな子どもでもプラスに育てることは可能です。その子の個性を認めるような「勇気づけ」の声かけをたくさんすることで子どもの心と脳は成長します。」という先生の言葉は、子育て・より良い親子関係を築くための指針を与えてくれるものでした。



保・幼・小・中連携セミナー

講師 中嶋 彩先生

8月11日(木)、甲州市民会館において、保・幼・小・中連携セミナーを実施し、112名の保育・教育に関わる方が参加しました。今回のセミナーでは、日本臨床心理研究所の中嶋 彩先生による「保・幼・小・中の滑らかな連携を求めて」と題する講演と、「現状を踏まえた連携活動の課題と対応について」をテーマとするグループ討議を行いました。

保育所・幼稚園から中学校へ(小1プロブレム)、小学校から中学校へ(中1ギャップ)といった校種間の移行でのつまずきにおいて、新しい学校生活



グループ討議の様子

をスムーズに送れない子どもたちが増えてきています。講演では、このジョイント期での連携について留意すべき事柄を、中嶋先生の実践や山梨市の取り組みをもとに講演していただきました。

子どもたちの指導にあたる大人が、目の前の子どもをよく見て、特性を知り、同じ視点で同じ困り感をもって教育していくことの大切さを改めて感じました。

後半は、グループ毎に、「日常の交流・連携活動の中での課題とその解決の方法について」をテーマに熱心な討議をしていただきました。

参加者の感想をいくつか紹介します。

- ・ 連携活動の背景・連携の必要性等について、学べて良かったです。グループでの話し合いがあることで、参加者にとって具体的な会になったと思います。
- ・ 中嶋先生の実践を踏まえた講演だったので現場での思いと一致する内容が多く理解しやすかった。
- ・ 先生同士の交流だけでなく、子ども同士の交流も増やしていくことが大切だと思いました。
- ・ 保・幼・小・中の連携ということで、普段交流のない学校関係の先生方の話をきくことができ、とても参考になりました。
- ・ 「連携」に関わって問題(課題)となって進めていく事柄について触れて説明していただき、今後、困った時、どうしたらいいかがわかりました。
- ・ 中1ギャップ解消、小中の連携について知ることができました。チームで関わることの大切さも感じました。



子どもフェスティバル

8月6日、山梨市民会館において「第12回やまなし子どもフェスティバル」が開催されました。人形劇・紙芝居・おもちゃのかえっこコーナー・食育コーナーなど楽しめる催しやベビーマッサージ・歯科検診といった子どもの健康に関するコーナーもありました。

今年は「ミニ四駆ひろば・プラモデルSD教室」など新たなコーナーがかわり、お父さんやお兄ちゃんの参加も増えました。

「市長さんと話そう」のコーナーでは、竹越市長に子育て中のお父さん・お母さんが、市への要望として「チャイルドシートの貸出期間の延長」「万力公園に親子で使えるトイレの設置」など生の声を直接伝える場面もありました。行政や地域の方々との協働により温かい雰囲気の子どもフェスティバルとなりました。



ポップコーン くださーい!



みんなで踊って食育講座



市長さんと話そう



市内保育園の紹介

NPO法人学びの広場「ふえふき」



フリスビーづくり

笛吹市のNPO法人学びの広場「ふえふき」では、市内の小学生を対象に「夏休み 学びの広場」を開きました。学びの広い場「ふえふき」は、教職員のOBからなるもので、日頃は、石和西小学校や富士見小学校などで放課後児童に学びや遊びの場を提供しています。

この教室は、夏休みの課題のサポートをしようと、平成20年度から開催しています。参加者は年々増加し、今年は笛吹市内の全小学校から申し込みがありました。3日間の「読書感想文教室」「絵画教室」「工作教室」には延べ約170人の小学生が参加しました。

参加者の感想

絵画コース

- ・下絵はうまくかけたのに、絵の具はだめでした。だけど、絵画教室は失敗した所を簡単になおせるコツを教えてくださいました。
- ・すてきな絵が掛けてよかったです。ありがとうございました。
- ・はじめは自信がなかったけれど今日ピーマンをうまくかけてすごうれしかった。

感想文コース

- ・わかりやすく楽しかった。今日ならったことは夏休み宿題で生かしたい。
- ・苦手なぼくに、とてもやくにたった。また、やってもらいたい。
- ・自分の感想を人にわかりやすく伝えることを目標にして書くことがわかりました。

うちわコース

- ・ドキドキ・ワクワクしていました。上手にぬりえをしてはることもできました。
- ・エコで簡単なうちわでした。自分のうちわがつくれてうれしかった。
- ・今度はせんす作りをやってみたいと思いました。

フリスビーコース

- ・まげるところが難しかったです。
- ・ホチキスでとめるところが難しかったです。家でもつくりたいです。
- ・13等分にするとところがむずかしかったです。



完成した
うちわを持って



山梨県子どもクラブ親睦球技大会

8月13日、第40回山梨県子どもクラブ親睦球技大会が中央市の田富北小学校、田富市民体育館で行われました。峡東管内からはソフトボールの部に笛吹市石和町中川子どもクラブ、山梨市三富子どもクラブ、甲州市下萩原育成会、ミニ・ソフトバレーボールの部には、笛吹市一宮町末木子どもクラブ・御坂町尾山子どもクラブ、山梨市落合子どもクラブ・南子どもクラブが地区大会を勝ち上がり参加しました。

異年齢、また地域を越えた交流の場は、プレーする選手だけでなく温かい声援を送る仲間や保護者の姿が一体となっていました。スポーツを通して健康な体と精神を養い、お互いに親睦を深めるよい機会になったと思います。



開会式の様子

峡東勢は、昨年に続きアベック優勝！

★ ソフトボールの部 (参加 10 チーム)

優勝 石和町中川子どもクラブ

★ ミニ・ソフトバレーボールの部

(参加 16 チーム)

優勝 一宮町末木子どもクラブ

2位 御坂町尾山子どもクラブ

3位 山梨市落合子どもクラブ





山梨県立山梨高等学校



一人一人が夢と目標を持つことができるように。。。



山梨高校では一人一人が、自分自身にふさわしい夢と目標をもち、その夢と目標を達成できるように、個に応じた教育実践に取り組んでいます。職員室前の廊下には質問コーナーが用意され、毎日多くの生徒が先生方に質問をしている姿がみられます。また、生徒面談も活発に行われ、生徒個々の希望を聞き取れるよう取り組んでいます。

多岐な選択授業による少人数制授業



山梨高校では自分の進路に合わせた授業選択ができるよう、カリキュラムが設定されています。また、学校設定科目として、多種多様な科目が用意され、より自分の進路にあった授業選択ができるようになっています。



学校設定科目

小論文・デザイン・応用書道・英語総合・
生命の科学・情報実践・
数学探究Ⅰα,Ⅰβ,Ⅱα,Ⅱβ・
社会・インターンシップ
(2011年開講科目)



変わりつつある生徒のニーズに合わせた取り組みを。。。



いま、梨高生が変わりつつあります。より高く、より遠くへ……。大きな夢と目標を胸に、山梨高校を目指してくれています。その期待と希望を叶え、一人一人の要望に応えるために、山梨高校も、全力で変化をしていかなければいけないと考えています。生徒たちの大きな飛躍のために、山梨高校は常にしっかりとした歩みを続けています。

進路実現のための取り組み

放課後課外・定期テスト前学習会・週末課題・夏季特別課外・土曜学習会・土曜課外などなど。また本年度、自学自習のための空調完備の学習室が設置され、この夏休みにも多くの生徒に活用されました。

